

ドル/円相場のトレード戦略

■ 中長期展望

ドル/円相場は、来年以降に向けた長期ドル安・円高トレンドにある中、しばらくは105円～115円のレンジ相場を続けていくものと考えます。

昨年までは2012年から続いてきた長期ドル高・円安トレンドが続いていたわけですが、今年に入ってそれが終了したと判断されます。

【ドル/円 週足】



テクニカルで見て、下値を支えてきたサポートラインを下方ブレイク (①) したこと、相場の長期の方向性を示す52週移動平均線が下向き（ドル安・円高方向）に転換したことに加え、1995年以降のドル高・円安局面がほぼ2～3年サイクルで終了していることと整合します。つまり現在のドル/円相場は2012年から2015年のドル上昇に対する調整局面にあるものと考えられ、そうであれば95年以降のドル安・円高に対する調整は最短でも約1年弱続いており、今回に当てはめると2017年前半まではドル安・円高トレンドが続きそうです。

しかし、95年以降のパターンを見ると、52週移動平均線が下向きに転換した後は-10%～-14%程度まで下方乖離すると一旦下げ止まる傾向が見られ、現在の水準で計算すると下値めどは107円～102円程度となり、5月のGWでの下押しで105円台をつけていることから一旦は反発する可能性が出て来ています。

ドル/円相場のトレード戦略

また、下げ止まり後は52週移動平均線近辺まで反発する可能性があり、上値のめどは52週移動平均線のある119円水準です。ただし、上値に関しては今年3月何度も上抜けを試して跳ね返された114円～115円はきわめて強い抵抗となっており、この水準を上抜けることは難しいように思われます。

以上のことから当面は105円～115円のレンジでの上下動が続くため、レンジ内での押し目買い・戻り売りが中長期で見たメインのトレード戦略となります。

リスクシナリオとしては、

- ①マーケットにサプライズを与える新たな手段による金融緩和や日銀のドル買い・円売り介入によって115円をクリアーに上抜き120円水準まで上昇すること、
- ②米国経済の悪化により米国が利上げできない、もしくは利下げを検討するなどの要因によって105円さらには100円を下抜けてしまうこと、が考えられます。

■ 短期展望

今週は、先週よりややドル強気となるもののドルの急上昇は難しく、109円台半ば～112円前半と水準を若干切り上げたレンジ相場を予想します。

先週は、週初に発表された日本の貿易黒字が市場予想を上回ったことや各国の株式市場が軟調だったことを受け円買いが強まり109円台前半まで下落しましたが、想定していた以上にドルは底堅く、この水準が目先のドルの底となりました。

その後、米連邦準備理事会(FRB)のメンバーから相次いで早期利上げに前向きな見解が表明され、週末にはイエレンFRB議長も「経済が上向けば数か月以内の利上げが適切」との見解を示したことで、市場は米国の早期利上げを急速に織り込む動きとなっており、ややドル高方向への圧力が強まっているといえそうです。

上値の重かった110円台を上抜けてきており、日銀ショック時の水準である111円台後半が視野に入ってきました。

しかし、米国の早期利上げも経済回復の前提条件があり、また英国の欧州連合(EU)離脱の是非を問う国民投票(6月23日実施)の行方が意識されるなど不透明要因も多く、一気にドルが上抜けるイメージはもてません。

週末には米雇用統計というビッグイベントも控えており、まだ一方向への強い動きは想定しにくいものと思われます。